

挑む!

高齢者施設向け出張カフェを営む  
てらがわ  
寺川 麻依子さん(39)

## スイーツ30種「選ぶ」喜び届ける



ショートケーキにフルーツタルト。30種類近いスイーツを軽パンに載せ、京都や大阪、和歌山へと出張しては、1日限定のビュッフェ形式のカフェを開く。行く先は、高齢者施設だ。

もともと福祉畑でなく、飲食業など数社で働いた。仲間と始めた会社で施設の清掃に入り、そこで暮らす高齢者の姿に驚いた。ずっと天井を見ている人。うつむいたままの人。自分でできることはないかとの思いが芽生えた。転職になったのは、取引先の施設で

京都府出身。仕入れから片付けまで1人でこなす手際の良さは、ファストフード店や定食屋で働いた経験で培った。出張カフェの店名は「空クッキー」。

催された出張デパート。多くの商品が並び、入居者が笑顔で買い物をしていった。施設に入ると与えられることが多い。自ら「選ぶ」ことが減るのでは。そう気づき、昨年3月に初めてカフェを開いた。色とりどりのケーキを見て、車イスの女性が「うわー」と目を輝かせた。これほど喜んでもらえるならと、1人で事業に乗り出した。

いま力を入れるのは、その人の得意なことや経験をいかし、自信や生きる喜びにつなげる取り組みだ。ある施設では入居の女性が数十年ぶりに抹茶をたて、カフェの客にふるまった。「お役に立ててうれしい」。そのいきいきとした表情に、手応えを感じている。

「あくまでサービスマン」の立場から、高齢者が主役になる機会を広げたい。人生、やってもらっただけじゃつまらないから。

文・写真 十河朋子

記者から

自立支援って？ その人らしく生きるって？ 介護の核心に、外部の人間だからこその手法で迫る。